



(損保版)

第1~4月曜日発行
発行所 新日本保険新聞社
大阪府西区本町1丁目5-15
電話 (06) 6225-0550 (代表)
FAX (06) 6225-0551 (専用)
購読料 1か月2200円
(消費税、送料込み)
©新日本保険新聞社 2021

シンニチ保険Web
www.shinnihon-ins.co.jp
購読者専用バックナンバー
閲覧パスワード

アイエスマス

リース車両修理費用保険「リペア保険」発売

特徴や今後の事業展開について聞く



三谷社長(左)と菅原営業部長

お客様に対して
ワンストップ
サービスを提供
できるはず
だということも
あった。この
点について金
融庁に確認し
たところ、損

害保険会社による自動車
保険への補償に該当する
ということだった。今回、
少額短期保険会社を立ち
上げたのはこうした理由
によるものだ。

三谷 SMAサポート
社では保険代理店として
毎年、数万件規模の事故
対応を行っているが、こ
れらの事故データをもと
に車両一台あたりの平均
修理費用を算出したところ、
年間20万円前後だ
った。こうしたデータか
ら、車両保険金額を自
由に設定できる(5万円
~500万円/5万円単
位)当社商品の顧客への
利便性は大きいと当社で
は考えている。

菅原 商品ラインアップ
は事故実績型とテレマ
ティクス型の2通りあ
る。事故実績型は通常の
自動車保険にあるよう
に、保険金の使用実績に
基づいて、

Table comparing insurance coverage: 一般の自動車保険 vs リペア保険を導入後

リペア保険は費用保険として、車の修理補償を賠償責任
補償(対人・対物賠償)などと分離させた

三谷 企業
によるドライ
バー教育の一
環にもなり得
るテレマティ
クス型に比重
を置くように
したいと考え
ているが、テ
レマティクス
型に加入する
際は保険加入
するのに加え
て、スマート
ドライブ製の
テレマティク

菅原 現在のフリート
割引率20%のお客さま
(車両:トヨタプリウス)
が、契約期間1年間、保
険金額100万円、免責
金額5万円の条件でリペ
ア保険に加入する場合の
年間保険料は、事故実績
型で5万6000円、テ
レマティクス型だと4万
3000円となる。

三谷 SMAサポート
社が保有する自動車保険
全体(数十万台のうち、
4割の車両が自動車保険
に車両保険を付帯してい
ない。付帯しない主たる
理由の多くはやはり、車
両保険料の高さによるも
のだ。ただ、これらの企
業の大半は経営リスクの
観点からも、車両保険に
よる補償の備えをしてお
きたいと考えている。従
って、当社ではまず、車
両保険を付帯していない
これらのリース車両に向

三谷 次のステップと
して、他のリース会社も
含めた国内での全リース
車両約400万台のうち
の法人による300万台
以上の車両を対象にして
いく考えだ。ただ、誤解
のないように申し上げて
おきたいのは、当社の目
的は車両保険を付けてい
ない車両への備えを推進
していくことであって、
損害保険会社の既存の自
動車保険からの切り替え
を積極的に図るものでは
ないということだ。

三谷 テレマティクス
型の加入は企業の従業員
(ドライバー)教育にも
つながる。
三谷 テレマティクス
車載器から取得する運転
挙動によって、車両一台
ごとの等級(テレマラン
ク)が決まる。テレマラ
ンクから算出される保険
料によって、どの車両の
事故リスクが高いのかが
可視化できる。ドライバ
ーの安全運転が保険料低
減に直結するため、安全
運転推進活動の効果測定
が可能となる。このよう
に事故リスクが高い車両
に対して適切な安全運転
対策を実施するといった
従業員教育を社内で行っ
た上で、事故を未然に防い
で、事故を未然に防いで
もらうことこそ、私たち
が本場に目指すものだ。
―― ありがとうございます

少額短期保険会
社の立ち上げおよびリペ
ア保険開発の経緯につい
て教えてください。
菅原 リペア保険の構
想自体は以前から持っ
ていた。当初、グループ会
社のSMAでは主要事
業である自動車リースで
のサービスの一環とし
て、車両のメンテナンス
サービスを拡充したいと
考えていた。具体的には、
リース車両が事故で修理
を要するときの費用補償
対応を損害保険会社では
なく、リース先のお客
様に対して

菅原 車両保険を付帯
しない自動車保険は損保
会社で、車両保険部分の
みをリペア保険で備えて
もらうというイメージに
なる。自動車保険の契約
者から少なからず聞かれ
る声のなかには、車両保
険部分の保険料が高いと
いうものがある。一般の
車両保険の保険金額は、
車両の全損を想定してい
るため車両の時価と同額
に設定されることから、
保険料が高くなりやす
い。駐車場事故などの軽
微な事故が多い場合に
は、車両保険の保険料が

高く感じる契約者がいる
のも確かだ。リペア保険
は保険金額を自由に設定
可能(5万円~500万
円/5万円単位)なため、
想定される事故リスクに
応じて必要な金額だけ
をカバーすることが可能と
なる。

三谷 SMAサポート
社では保険代理店として
毎年、数万件規模の事故
対応を行っているが、こ
れらの事故データをもと
に車両一台あたりの平均
修理費用を算出したところ、
年間20万円前後だ
った。こうしたデータか
ら、車両保険金額を自
由に設定できる(5万円
~500万円/5万円単
位)当社商品の顧客への
利便性は大きいと当社で
は考えている。

三谷 企業
によるドライ
バー教育の一
環にもなり得
るテレマティ
クス型に比重
を置くように
したいと考え
ているが、テ
レマティクス
型に加入する
際は保険加入
するのに加え
て、スマート
ドライブ製の
テレマティク

菅原 現在のフリート
割引率20%のお客さま
(車両:トヨタプリウス)
が、契約期間1年間、保
険金額100万円、免責
金額5万円の条件でリペ
ア保険に加入する場合の
年間保険料は、事故実績
型で5万6000円、テ
レマティクス型だと4万
3000円となる。

三谷 SMAサポート
社が保有する自動車保険
全体(数十万台のうち、
4割の車両が自動車保険
に車両保険を付帯してい
ない。付帯しない主たる
理由の多くはやはり、車
両保険料の高さによるも
のだ。ただ、これらの企
業の大半は経営リスクの
観点からも、車両保険に
よる補償の備えをしてお
きたいと考えている。従
って、当社ではまず、車
両保険を付帯していない
これらのリース車両に向

三谷 次のステップと
して、他のリース会社も
含めた国内での全リース
車両約400万台のうち
の法人による300万台
以上の車両を対象にして
いく考えだ。ただ、誤解
のないように申し上げて
おきたいのは、当社の目
的は車両保険を付けてい
ない車両への備えを推進
していくことであって、
損害保険会社の既存の自
動車保険からの切り替え
を積極的に図るものでは
ないということだ。

三谷 テレマティクス
型の加入は企業の従業員
(ドライバー)教育にも
つながる。
三谷 テレマティクス
車載器から取得する運転
挙動によって、車両一台
ごとの等級(テレマラン
ク)が決まる。テレマラ
ンクから算出される保険
料によって、どの車両の
事故リスクが高いのかが
可視化できる。ドライバ
ーの安全運転が保険料低
減に直結するため、安全
運転推進活動の効果測定
が可能となる。このよう
に事故リスクが高い車両
に対して適切な安全運転
対策を実施するといった
従業員教育を社内で行っ
た上で、事故を未然に防い
で、事故を未然に防いで
もらうことこそ、私たち
が本場に目指すものだ。
―― ありがとうございます

車両補償部分だけを分離
車の修理費用補償のみに特化

高く感じる契約者がいる
のも確かだ。リペア保険
は保険金額を自由に設定
可能(5万円~500万
円/5万円単位)なため、
想定される事故リスクに
応じて必要な金額だけ
をカバーすることが可能と
なる。

三谷 SMAサポート
社では保険代理店として
毎年、数万件規模の事故
対応を行っているが、こ
れらの事故データをもと
に車両一台あたりの平均
修理費用を算出したところ、
年間20万円前後だ
った。こうしたデータか
ら、車両保険金額を自
由に設定できる(5万円
~500万円/5万円単
位)当社商品の顧客への
利便性は大きいと当社で
は考えている。

春秋

我が家では、7月の
中旬に蓄電池を設置し
た。厳密に言えば、設
置してもらった。とい
うのは、屋根の上に設
置している太陽光発電
パネルがそろそろ10年を迎えるから
である。設置から10年を超え
ると、売電価格が大きく下が
り、売電益が減少、メリット
が無くなるからである。

脱炭素社会に向けて

7月末までと期間が長く、酷暑のは
ずの8月中旬から前線の影響で長
雨。まるで梅雨。これでは太陽の光
熱があつてこそ太陽光発電なの
に、発電量が少なく、勿体ない気が
する。自然相手の発電なので仕方な
いことだが、発電量の数値を見ると

残念な気持ちになる。せっかく新た
に設置した蓄電池も活躍できない。
地球温暖化はじめ、気候変動は簡
単には止められない。我々人間が、
目先の利益で動いてきたので、その
報いが来ているのかもしれない。も
っとたくさんの方が、太陽光発電な
ど、脱炭素社会に向け、何か
行動してほしい。そうすれば、
気候変動も抑えることができ
るかもしれない。今はまだ、グー
グルなどで航空写真を見ると、屋根に
太陽光パネルの乗った家は少ない。
関心を持っている人たちが行動を起
こし、太陽光発電が普及し、空から
見る景色が変わるくらいになる日が
楽しみだ。(三和)